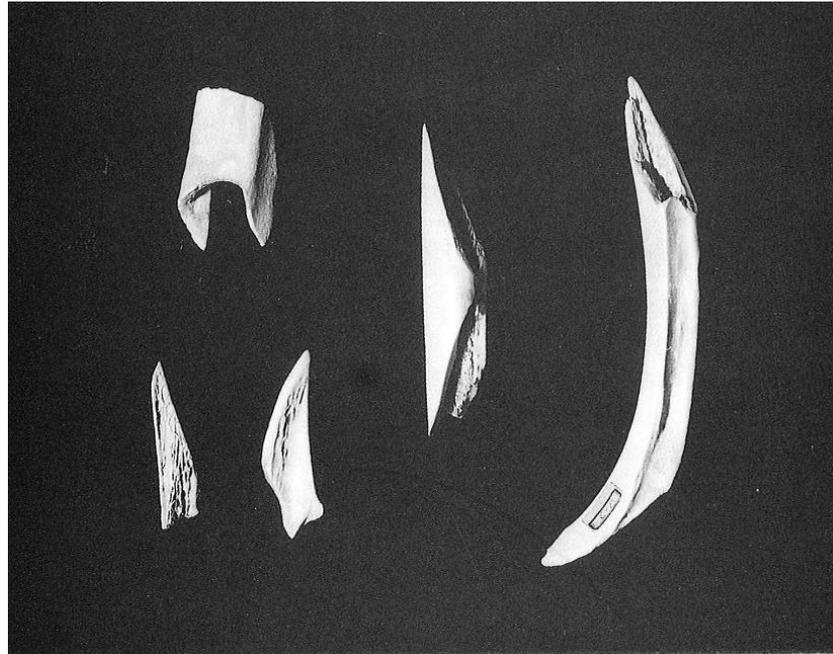


2017年8月

考古 No. 15

けんぱくものしりシート

かなもり いせき こっき
金森遺跡の骨器



こっき 複製
骨器 (複製)

いちのせきし はないずみちょうかなもり
一関市花泉町金森

かなもり いせき
金森遺跡

げん しりょう
原資料

こくりつ か がくはくぶつかん
国立科学博物館

地球全体の気温が今より低かった2万年ほど前の、氷期のころのこと。岩手県のずっと南の方には、マツやモミなどの針葉樹の林が広がり、野牛やオオツノジカをはじめとする多くの生きものたちがくらしていた地域がありました。これらの生きものは、当時、氷河ができて海面が下がり、海でへだてられていたところが陸続きになったときに、大陸からわたってきたと考えられています。このときやってきたのはウシやシカばかりではありません。これらの動物の狩りをしてくらしていた人間たちも、えものを追って今の日本列島に移り住むようになりました。写真はそこの人たちが使ったとみられている、大型の動物の骨で作られた道具、骨器です。

いわてけん なんぶ いちのせきし はないずみちょう
 岩手県の南部、一関市花泉町では、1927（昭和2）年にたくさんの大型動物の骨が発見されたことをきっかけに、多くのひとたちの手によって何度も発掘調査が行われました。その結果、ここからは絶滅したハナイズミモリウシやキンリュウオオツノジカ、ナウマンゾウなどの哺乳動物、そして寒い地域でみられるエゾマツやグイマツなどの植物の化石が大量に見つかりました。動物の化石は多くがバラバラでしたが、この中に人の手が加えられた



たあとがある骨が見つかりました。ハナイズミモリウシのような牛のあばら骨を折り、一方を両側からよく磨いて中心が尖るように作られた骨器で、石器とともに生活の道具として利用



器とともに生活の道具として利用されていたものです。花泉に

ハナイズミモリウシの全身骨格復元
 一関市花泉町金森
 第四紀 後期更新世 花泉層

くらししていた人たちの骨は今のところ発見されてはいませんが、2万年前の絶滅した生きものたちがくらししていた岩手の大自然の中に、人間の営みがあったという

参考 『岩手県立博物館第42回企画展 野牛とその時代—旧石器時代のいわて—』 岩手県立博物館 1998年

来月（9月）の
 けんぱくものしりシートは
 歴史—15だよ！
 おたのしみに！



モッチャン



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷 34
 Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>